

「第2回富県宮城推進会議幹事会」 会議録要旨

日 時：平成19年9月6日（木）午後1時30分～
場 所：宮城県庁行政庁舎4階 特別会議室
出席団体：資料名簿のとおり

1 開会（司会：宮城県経済商工観光部富県宮城推進室 千葉総括）

2 あいさつ（東北大学 渡邊副学長（幹事長））

- 今回は各団体が連携して取り組める事例について検討を行いたい。
- 県から「みやぎ発展税」について説明いただくことのあいさつがなされた。

3 報告事項（宮城県 若生経済商工観光部長，税務課 松田総括）

- 資料1～3により「みやぎ発展税」について説明
- 質疑は特になし

4 議 事

（1）「富県宮城の実現」に向けた各団体の取組について

各団体より資料4に基づき説明

《説明に対する質疑応答等》

○東北大学 渡邊副学長（幹事長）

- ・ 各団体の説明に対する質問があれば、願います。

○社団法人宮城県経営者協会 安保事務局長

- ・ みやぎ工業会は政策委員会の中で富県構想への取組みを議論している。当協会も富県構想への取組みを内部組織で議論できないか検討中である。みやぎ工業会のように、各機関が富県構想への関わりを内部で論議する体制をとることや、活動の一部を構想推進の一環としてとらえたり外部機関と連携し実施すれば、宮城県が官民一体となって富県構想に取り組む姿勢が見えてくると思う。

○社団法人みやぎ工業会 白幡副会長

- ・ みやぎ工業会だけで考えても、8.5兆円から10兆円に持って行くのは難しい。
- ・ 製造業の成長発展が期待されているが、この20年来のやり方では大幅な成長が見込めない。もっと外部との連携が必要だと考えた。
- ・ 各団体の説明をきいて、「1 育成・誘致による県内製造業の集積促進」と「5 産業競争力の強化に向けた条件整備」の取組での更なる連携の必要性を感じた。

○東北大学 渡邊副学長（幹事長）

- ・ 各団体とも、「観光」「人材育成」に焦点を絞っていただき、かなり共通する部分があるように見受けられる。

○東北学院大学 柳井教養学部地域構想学科教授

- ・ 「流通」や「物流」という視点も大事。

- ・ 例えば、天津にはトヨタやエアバスの工場が進出しているが、日本からの空路は直行便では名古屋発のみ。北京と天津の間に、物流専門の新貨物空港が建設されるという話も聞いた。
- ・ 自動車産業の集積においては、我々の出来ることを考えると同時に、こういった地域と連携をとっていくのかを考えることも必要。
- ・ 天津とのルートを早くつくって、自動車産業集積につなげていくことも一考ではないか。

○社団法人みやぎ工業会 白幡副会長

- ・ （農政局、経産局への質問）団体として取組を検討しても、最終的には各企業のトップの意向次第。国で沢山の支援メニューを用意しても、宮城県の企業はあまり活用していないように見える。
- ・ 他県と比べて、宮城県の企業トップのマインドをどう見ているか？「こうしていくべき」というところはないか？

○東北経済産業局 北沢総務企画部長

- ・ 宮城県は、支援メニューの活用という点では東北6県の中においては進んでいる。しかし、全国的に見ると東北の取組は弱い。特に企業誘致に見られるようにPRが下手。西日本は自分の強みをどんどんアピールしている。
- ・ 経産局としては、具体的な案件を持って相談された方が、支援メニューを提示しやすい。

○東北農政局 田中企画調整室長

- ・ 支援メニューの話をする際には、完全に具体化されていなくても、前もって大まかな課題を提示されたほうが該当する施策を示すことができるので相談を受けやすい。
- ・ 農産品と食品の販売、体験型観光において、西日本に比べてPRが弱い。
- ・ 東北サミットにおいて複数の知事から、県としてやるべきことと東北として連携すべきことがあるとの話があった。農政局としては、富県宮城のための取組や、富県宮城のための他県との連携といった面で、協力できると思う。

○東北大学 渡邊副学長（幹事長）

- ・ 観光のなかでも、「食」、「産業」、「伝統文化の保全」等を結びつけ、点から線へと発展させる取組が重要である。
- ・ 「観光」と何かを結びつけている取組があれば紹介してほしい。
- ・ 各幹事が、協働して取り組んでいくものとして思いつくものがあれば、後で事務局でまとめて欲しい。

○宮城県商工会議所連合会 大槻事務局次長

- ・ DCのプロモーション委員会で、「食」の地産地消の取組として、旅館やレストランで提供する食材の生産者を明記して土産話にしてもらおうというアイデアが出た。
- ・ ただ、米はともかく、旬の食材の安定的な確保は難しいようである。今後、農家や漁業者からも知恵を貸してもらいたいと考えている。

○東北大学 渡邊副学長（幹事長）

- ・ 観光は、アグリビジネス等との連携がある。
- ・ 次に、人材育成の観点で協働できることがあるかどうか議論したい。

○社団法人みやぎ工業会 白幡副会長

- ・ 人材育成とはいっても、産業分野やトップ・若手に対応が違うはず。

- ・ 県で一貫統合した上で費用対効果を見て役割分担をするべき。
- ・ 産業人材育成協議会で各種事業をシャッフルしてみてもどうか。

○東北大学 渡邊副学長（幹事長）

- ・ 産業人材育成について各団体から出された事業について、どのようにシャッフルできるのか事務局で考えてみてほしい。
- ・ IT化や農林水産の分野では、農林水産だけでは発展性がないので、観光と結びつけることが大事だと感じた。

○社団法人東北経済連合会 小野地域政策部長

- ・ 今年6月に東北観光推進機構が設立され、国外へのプロモーション機能が強化されている。
- ・ これからの観光は素材が大事。時間はかかるが「個性ある地域づくり」をして、商品造成につなげる。旅行業法が改正され、農協や商工会でコンソーシアムを組んでの旅行商品の造成が可能となった。広域ではなく観光地ごとに商品を造成し、旅行会社に売り、東北観光推進機構が広報宣伝を担当するという取組が重要になる。
- ・ 物流では、東アジアへの物流を戦略的に考える必要がある。小口貨物を仙台港から輸出できるように各県と連携すべき。

○東北大学 渡邊副学長（幹事長）

- ・ 宮城がゲートウェイになるべきという話が何回か出た。
- ・ 他にご意見があれば。

○宮城県 若生経済商工観光部長

- ・ 農林水産業のブランド化には、生産、流通、販売、観光物産という面がある。今後、宮城ブランド化の推進という名称で新たな取組をしてきたいと感じた。

○東北大学 渡邊副学長（幹事長）

- ・ モノのブランド化は難しいが、観光等を結びつけることでブランド化につながることもあると思う。
- ・ 今日の議論を踏まえて、「観光」「人材育成」から協働出来る課題を事務局でまとめたいと思う。
- ・ 幹事会が年度内に取りまとめるべき事項は、新税で取り組む事業、各団体で協働して取り組むべき事業の2点だと思う。
- ・ 本日の成果は、新税の概要、各団体の富県への取組事項の共有、協働取組事項が「観光」や「人材育成」であると認識できたことである。
- ・ 今後は、項目を絞って議論を深めていきたい。

（2）その他

- 資料7により「富県宮城オブ・ザ・イヤー」について説明。
- 資料8により「今後のスケジュール」について説明。
- 質疑は特になし

5 閉 会